洋上アルプス

No.338　2023年5月5日

発行
林野庁屋久島森林生態系保全センター

バックナンバーや屋久島国有林における入林申請等は
こちらにあります
http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/yakusima_hozen_c/

鹿児島県熊毛郡屋久島町宮之浦1577-1
TEL　0997-42-0331

令和5年度を迎えるにあたって

日頃より「洋上アルプス」をご覧いただき有り難うございます。

私も当保全センターの所長を拝命し、2年目を迎えることができました。

昨年度を振り返ってみますと、全国各地で甚大な自然災害や急激な円安、生活必需品の値上げ、海外情勢の悪化など多数の変化がありました。

また、全国的にも新型コロナウイルス感染症の猛威は衰えておらず、皆様におかれましても大変なご苦労があったことと思います。

さて、屋久島が世界自然遺産に登録されて、今年が30周年となります。その間、世界遺産を取り巻く状況も変化してきました。登山及び観光客の飛躍的な増加やそれに伴うし尿処理問題、または、自然環境の変化に伴うヤクシカの生息頭数の増加等。

このような課題を踏まえ、屋久島の世界自然遺産の価値を将来にわたって維持するためには「屋久島世界遺産地域管理計画」の改訂が大変重要となってきます。

屋久島森林生態系保全センター
所長　山部 裕一

現在、改訂に向けての作業が仕上げの段階に進んでおり、屋久島の将来にとっても大きな節目になる年度となります。

屋久島森林生態系保全センターでは、この節目の年に国有林野内に賦存する「屋久杉巨樹・著名木」に登録されている37本を中心に三次元レーザ計測やドローン等を使用して屋久杉の形状や植生等の調査を実施して参りますので、関係各位のご協力とご理解をよろしくお願いします。

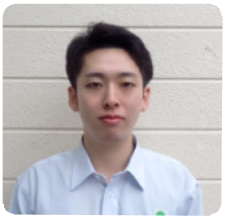
当保全センター職員の紹介

生態系管理指導官
木下 栄治

4月1日付けで北薩森林管理署より異動で参りました木下と申します。

出身は熊本県の山都町です。海からかけ離れており、屋久島の海は見慣れていない風景であり新鮮に見えます。屋久島は、初めての勤務で、色々わからないことも多いので、皆さんに聞きながら、少しずつなれていければと思います。

ここでは、各種モニタリング調査、森林パトロール、各種会議など各機関と連携するものが多いようですので、皆様のご指導のほどよろしくお願いします。



主事
塩澤 翔

4月1日付の異動で熊本森林管理署より参りました、塩澤翔と申します。

出身は長野県伊那市というところで、周りを3,000m級の山々に囲まれている自然豊かなところです。すぐ近くに高い山がある環境、また、屋久島には研修でお世話になる長野県林業大学校の出身ということもあり、とても親近感を抱いております。採用3年目で初めての異動、初の島暮らしとなりますので皆様にいろいろとご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

縄文杉周辺の低木剪定を実施（4月14日）

令和5年4月14日に屋久島山岳部保全利用協議会（環境省・屋久島町・樹木医及び当保全センター他団体含）計19名にて縄文杉周辺の低木剪定作業を実施しました。

縄文杉は、屋久島町の屋久杉巨木群の象徴とも言え、その存在だけでなくその場所に至るまでの長い登山プロセスを通して、地域住民や登山者が自然と人との関係性を考えることができるシンボルでもあります。

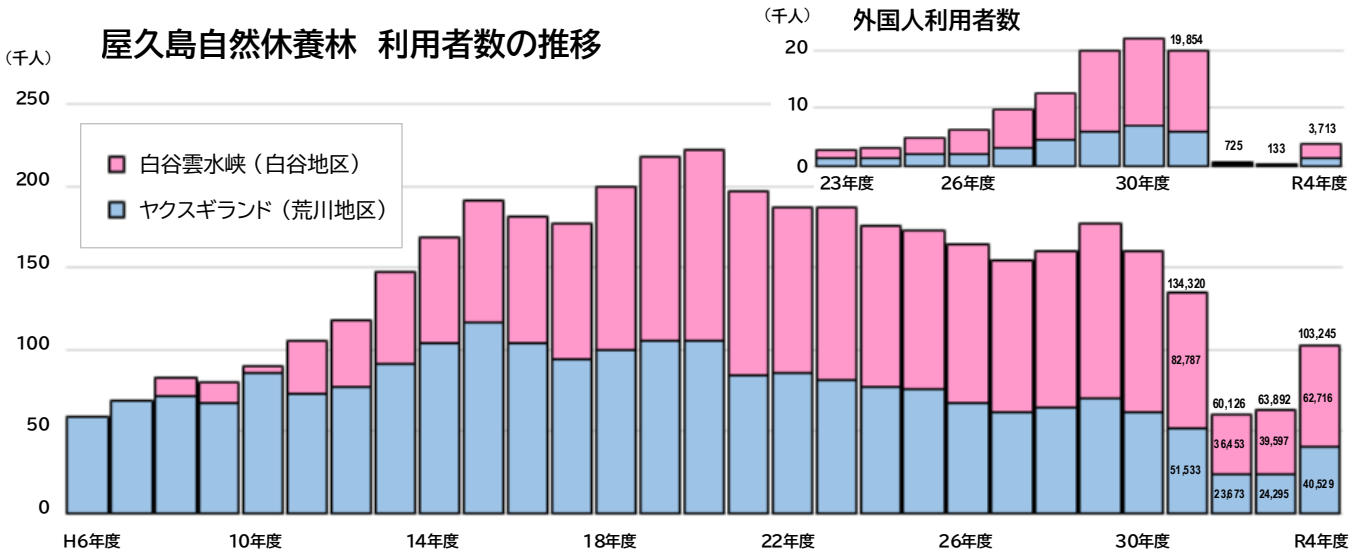
今回の作業内容は、縄文杉周辺の景観保全バランスをとりつつ展望デッキから望める縄文杉の視認性向上を目的に支障となる低木の剪定作業で、樹木医の意見を聞きつつ縄文杉周辺の植生環境に悪影響を及ぼすことがないよう細心の注意を払いながら作業に取り組みました。

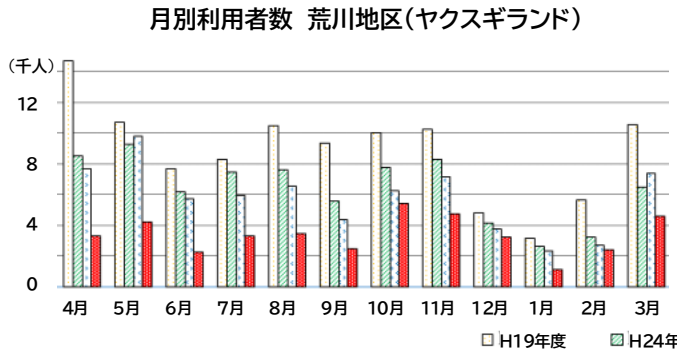
剪定作業後の縄文杉周辺（展望デッキより）

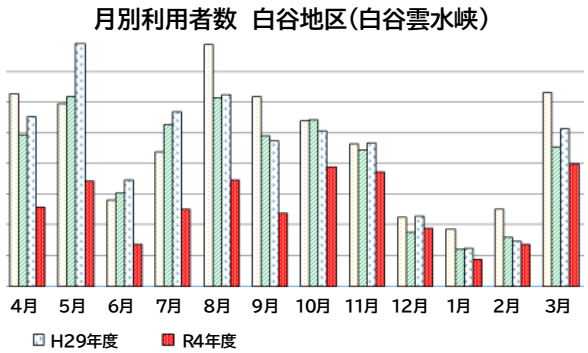
剪定後は、登山者から縄文杉の姿がよく見えるようになり迫力が増したとの声があり、今後も景観の保全や利用を図るため関係機関と連携し作業等に取り組んでいきます。

屋久島自然休養林 利用者 令和4年度

屋久島自然休養林の年度別利用者数及び令和４年度の月別利用者数の推移をグラフで表しました。令和4年度の利用者数は103,245人で令和3年度より39,353人増加しました。外国人利用者は令和3年度より3,580人増加の3,713人となりました。 ※データ提供：屋久島レクリエーションの森保護管理協議会







サツキは渓流植物なのか？ ―サツキとの出会い―

崎尾均（新潟大学佐渡自然共生科学センター・Botanical Academy）

私が初めて屋久島を訪れたのは，1985年の10月であった．

鹿児島で開催された植物学会の帰りに，せっかくだから屋久島に寄って行こうと思い，妻と鹿児島で合流した．安房から淀川小屋，宮之浦岳を経て鹿之沢小屋に泊まり，翌日，縄文杉を見てトロッコ道を経て安房に戻った．

その後，屋久島のガイド小原比呂志さんと知り合いになり，二人の女子学生とともに，屋久島の荒川の沢登りに連れて行ってもらった（写真1）．

その渓流は見事な美しさで，渓畔林を研究している私にとって，ワクワクするような体験であった．その渓流で水際に一列に並んで分布しているサツキを見た．サツキラインとも表現できるように綺麗に列をなしており，一瞬で洪水の攪乱がサツキ群落に影響を与えていることを理解することができた．

将来，機会があれば，屋久島の渓畔林を研究したいと思ったのが，屋久島でのサツキ研究のきっかけである．

その後，2017年5月にNHKの「伝説の超巨大杉」の番組のロケに参加した．その調査の合間に宮之浦川河口周辺のサツキ群落を訪れ，満開のサツキに魅了された（写真2）．2019年にもNHKの取材に参加し，山中の渓流に分布するサツキを見て，ますますサツキに取り憑かれていった．

研究するには，研究費の確保が必要なので，2019年度から3年間，屋久島環境文化財団の研究助成を得て調査に取り掛かった．

手探りの中での調査が始まったが，文献を調べてもサツキの分布に関する情報があまり見つからなかった．そこで地元の方々の情報を得ることが重要と考え，屋久島で水辺林のセミナーを開催し，そこに集まっていただいたガイドの方々に研究内容を紹介するとともに，その場でサツキの分布情報を提供していただいた．

写真1　2009年に屋久島のガイド小原比呂志さんに荒川の沢登りに連れって行ってもらった際に，渓流で見たサツキ群落．サツキは大きな岩場にしがみつくように分布している．度重なる洪水の影響で幹が下流方向に倒れている．

写真2　2017年に宮之浦川の下流域で満開のサツキに出会う．まさに，水際に分布する樹木であった．

多くは安房川や宮之浦川などの河川や渓流沿いであったが，愛子岳などの山頂周辺にも分布しているという情報を得た．

私はこれまでサツキは渓流沿いの植物と認識していたし，図鑑や植物分布の報告書でも渓流植物と記載されていたので，これは驚くべき情報であった．ここから私の屋久島通いが始まった．(つづく)

屋久島東部地域の垂直方向の植生モニタリング調査（令和3年度）

[標高200mプロット（愛子岳東側尾根・谷含む緩傾斜面）] 確認種数：91種（平成28年度：73種）

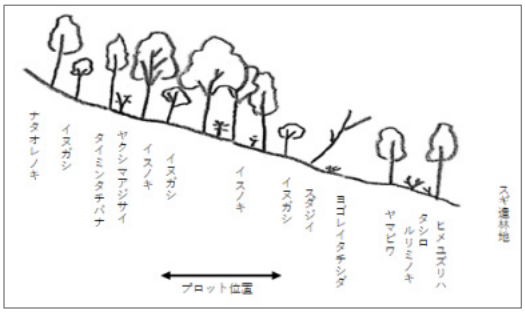
◆調査結果の概要　照葉樹を優占種とする広葉樹二次林である。スダジイはカシノナガキクイムシ被害で衰弱後、腐朽を受けた大径木の立ち枯れが目立つ。林冠にギャップが生じたことにより、亜高木層、草本層の植被率が増加し、林床植物は28種が新規に確認された。亜高木層以下の階層はいずれもシカの採食圧を強く受けた種構成であるが、草本層では嗜好・不嗜好の偏りが解消されつつあり、シカの生息密度低下が影響した可能性がある。海岸性暖帯林の構成種も出現し、当調査地でのみ見られる種が6種確認されている。

◆優占種の変化

階層区分	平成13年度	平成18年度	平成23年度	平成28年度	令和3年度
高木層（9.0m以上）	スダジイ	スダジイ	スダジイ	スダジイ	スダジイ
亜高木層（3.0m～9.0m）	タイミンタチバナ	タイミンタチバナ	タイミンタチバナ	タイミンタチバナ	タイミンタチバナ
低木層（1.2m～3.0m）	イヌガシ	イヌガシ	イヌガシ	イヌガシ	イヌガシ
草本層（1.2m未満）	ヨゴレイタチシダ	タシロルリミノキ	イヌガシ	ヨゴレイタチシダ	ヨゴレイタチシダ

H28（5年前）のプロット内

R3（本年度）のプロット内



標高 200mプロットの群落縦断図

グリーンサポートスタッフ（GSS）巡視記録より　～花と景色～

太鼓岩より

新緑は4月5日、小杉谷までのパトロール中に太鼓岩から宮之浦岳の方を見た景色です。

薄いピンク色が山桜の花、黄緑色がヤクシマオナガカエデの新緑で、濃い緑色で尖っている木が小杉といったところです。

この時期の太鼓岩からの眺めは最高です。

ヒカゲツツジ

ヒカゲツツジは4月5日、小杉谷までのパトロール中、太鼓岩で見つけました。

名前の由来は、日陰にあるツツジからと聞きますが、写真のように日当りの良い場所にも咲いています。葉や花のつき方が、これから咲くシャクナゲによく似ています。